

寄稿 会員のひろば  
「心温まるお話」

「しつけの基本をおしえられ」

小多 偕裕

青少年の健全育成に僅かながら関わりをもった者として、特に最近の青少年非行の低年齢化が憂慮される思いから、本欄をお借りして寺田一清先生の著書「三つのしつけ」をご紹介したいと思えます。特にしつけの三カ条。

『しつけとは、礼儀作法を身に付けさせる事。しかし、その礼儀作法にも色々有るようで永平寺の参籠で経験した事のある道元禅師様が最も重んじられ、作法即仏法・仏法即作法とまで言われ規律戒律を厳しく説かれた食事のとり方、洗面のあり方、手洗いや入浴のあり方に至るまでの作法がありますが、中でも最も基本的なものは、一、祖父母や両親に、朝起きたらあいさつの出来る様に、二、祖父母や両親から名前を呼ばれたら「ハイ」と返事の出来る様に、三、脱いだ履物は自分できつちりと揃えて上がり、立ったら椅子を机の下に納められる様に。これがしつけの三カ条。

この三つの基本が身に付いたら、ほかのしつけも出来る様になるのです。これは人間の生き方の基本であり、人間が軌道に乗る三カ条でもあるのです。」

と教えていただいています。

思い起こせば、数年前勤務先で毎日の朝掃除をしている時の事。決まった時間に某中学生が、制服ズボンを見かけ「おはよう」と声をかけると無言で通過。一週間が過ぎると今度は反対側の道路を無言で登校。しかし、さらに一週間過ぎた頃、今度はこちらより先に向こうから「おはよう」の声がかかって来て、ズボンも正規に穿いた姿に喜びを感じた事が有りました。「まず大人が基本を示すこと。継続すること。これが大人も子どもも育つ事につながるものであると納得した次第です。ぜひ、寺田先生の「三つのしつけ」を一緒に読んで下さい。

本 気

石田 弘子

本心・本気・本腰・本願・本のつくものはいい。とりわけ本気は好きな言葉の一つです。

地元の中学校で、郷土の先人に学ぼうをテーマに生徒と共に学んでいます。先人の考え方や生き方について進んで学び、共感し、自分の生き方に取り入れようとする子どもの育成が狙いです。代表的な人物に藤本太郎兵衛と琵琶湖治水の取り組み（郷土愛）、中江藤樹と馬方又左衛門（正直な心・誠実な行い）、そして清水安三と勉学の心（人類愛・強

い意志）等を取り上げています。映像や資料を利用し、また現地に足を運び、自分自身の目で見て、手に触れることにより身近に感じ印象付をしています。地域社会の一員として自分がどの様に生きていきたいかを考えていきます。郷土を愛し、社会に尽くした先人の生き方を通して高年齢者に尊敬と感謝の念を深め、郷土の発展に努めてほしいものです。そしてその生き方を永く後世に語り継いでくれることを願っています。先人たちの本気の生き方は私たちの血肉となって生き方を励まし力づけてくれるに違いありません。

本気ですれば

大抵のことが出来る

本気ですれば

何でもおもしろい

本気でしていると

誰かが助けてくれる

本気で取り組めば互いに心が繋がります。本気が正されます。顔つきが優しくなりま

桜の落ち葉

三田村 治夫

十年ほど前に私が赴任していたある小学校でのお話です。（これまでに学校だよりなどで紹介している内容です。）

学校のすぐ前のお家の横には小屋があつて、その軒下に毎朝決まったようにのら猫が四、五匹も寄つてき

ます。そのお家のおばあさんが、猫のえさを置かれているからです。

その小学校は校舎の色までピンクにするほど昔から桜の木が多く、まさに桜の学校です。春には実に見事な花を一面に咲かせます。ところが、秋も更けていくと、毎年桜の枯れ葉が地面を埋め尽くします。風でも吹けば、付近は落ち葉でいっぱいになります。学校の前の猫に優しいおばあさんのお家の前も、毎日のように桜の落ち葉が散らばります。

ある日、私は桜の落ち葉の掃除にいったら、ちょうどおばあさんも家の前の落ち葉をせっせと掃いておられました。そこで、私が、「いつも家の前を散らかせて、すみませんね。」と謝ると、おばあさんは、ニコニコしながら、

「なんの、なんの、私は春になると家に居ながら、美しいお花見をさせてもらっています。こんなことぐらいいしな」とばかりが当たりますよ。」とおっしゃったのです。

その言葉に「瞬間がつかまって返す言葉もなく、もう一度「すみません。」と言つのがやつとでした。「ありがとうございます。」と言うべきだったかもしれません。

このおばあさんがおっしゃったような言葉を何気なく発せられるお年寄りに、私もなりたいた、こんな老い方をしたいなど、初老を迎えた今思っています。